

廃工場再活用アイデアコンペ  
「のこぎりのやね」

報告書

平成 29 年 11 月  
野田和弥  
平松毛織株式会社

## 廃工場再活用アイデアコンペ

# のこぎりのやね



最優秀賞 賞金3万円

審査員

野田和弥（工場オーナー） / 服部隆宏（服部住設） / 平松久典（平松毛織株式会社）

### 設計課題

のこぎり屋根工場の大規模な修繕工事にあたり、**新しい発想の屋根**、それに伴う**外壁デザイン**の提案を募集します。屋根の形状、機能及びそれによって得られる効果、空間の特徴等、自由な発想で表現して下さい。

（例：本来北側窓の工場の屋根を全面トップライトとし、工場内を植物園にする。）

繊維業を営む場所としての役割を終えた工場に、新しい可能性を感じさせる提案をお待ちしています。

### 対象建築物

昭和36年9月築・木造セメント瓦葺平屋建・建築面積42坪（7間×6間）・2連の屋根

### コンペ開催に至るまでの経緯

築50年を超えるのこぎり屋根工場。オーナーの野田さんは使われなくなった工場にもう一度光を当て、学び場、遊び場、憩いの場として、元気な地域づくりに貢献できるような場を提供しようと計画されています。

そのためには、老朽化した屋根や壁の大規模な修繕工事が必要と判断されました。

野田さんと話し合い、せっかく工場に手を入れるのであれば、新鮮なアイデアを加えてはどうか、

そしてそのアイデアは公の場で考察されるべきではないかという結論に至りました。

工場の概念に風穴を開けるようなアイデアを期待するとともに、野田さんの工場でこれから行われる活動にとって、また再活用を待っている他の工場にとって、有益な議論の場となることを望みます。

平松毛織株式会社 平松久典

### 主催・会場・申込先

野田和弥（工場オーナー）

愛知県一宮市竈屋1-10-33

電話：0586-43-7090

メール：kazuyan5f3f@yahoo.co.jp

### 後援

のこぎり二（平松毛織株式会社）

HP：noko.webcrow.jp

## <応募要項>

### 公開プレゼンテーション

平成29年11月19日(日)午後1時～5時

会場：旧野田毛織工場

- 1 各応募者によるプレゼンテーション
- 2 設計案及び応募者に対するの質疑応答
- 3 各設計案に対する批評
- 4 審査員及び応募者を含む参加者全員による投票  
(この投票結果は審査の参考資料となります。)
- 5 公開審査(自由参加)

### 審査結果発表及び表彰式

平成29年12月3日(日)午後1時予定

会場：旧野田毛織工場

### 現地見学会

1回目：平成29年9月23日(土)

2回目：平成29年10月8日(日)

事前申し込みが必要です。電子メール本文に「氏名」「住所」「連絡先電話番号」「参加日時」を記載し、申込先まで送信して下さい。  
上記日程以外の個別見学も可能です。その際も事前にお申し込み下さい。但し日程調整の保証は致しかねます。

### 応募資格

年齢、資格等一切の要件なし。応募申込を送付の上、公開プレゼンテーションに参加できる人。

### 応募作品

絵、写真、文章、図面、模型等、表現及び形式は自由とします。プレゼンテーション当日にご持参ください。

但し、プロジェクター等によるプレゼンテーションは行わないものとします。

なお、作品に掲載するイメージ写真・イラスト等は著作権を十分に考慮してください。

### 応募申込方法

設計競技応募の意思、「氏名」「住所」「連絡先電話番号」「応募予定作品の形式」を記載し、申込先まで送信して下さい。

### 応募申込締切

平成29年10月22日(日)

### 審査方法

審査の一部はプレゼンテーション後、審査員により公開で行うものとします。

この際応募者を含む参加者による意見は認められますが、決定権はないものとします。

### 設計案の著作権

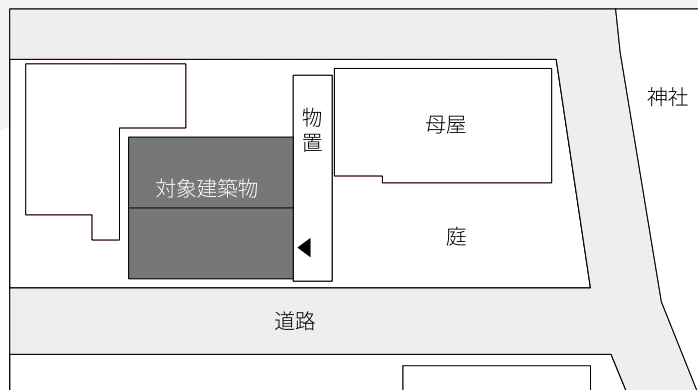
設計案の著作権は応募者に帰属します。

但し、本設計競技結果報告や工場再活用の活動内容報告等に応募者の設計案等が公開される場合があります。

公開を拒否する場合は事前に主催者にお伝え下さい。

### 設計案が実施される場合について

応募者の設計案が実施される場合は、主催者及び応募者の協議により、原則として別途基本設計料及び実施設計料を主催者が応募者に支払うものとします。なお、実施される設計案は、最優秀賞に選定された設計案とは限りません。



### 対象建築物及び敷地

(既存平面図、立面図、写真等は「のこぎり二」HPに掲載予定)

敷地内に駐車場はありません。「のこぎり二」の駐車場をご利用下さい。

また、プレゼンテーション当日利用可能駐車場の場所は後日公開します。

詳細は「のこぎり二」HPにてご確認ください。<HP:noko.webcrow.jp>

## 廃工場再活用アイデアコンペ

日時：平成 29 年 11 月 19 日

場所：旧野田毛織工場

参加者：17 名

- |                                    |               |
|------------------------------------|---------------|
| 1 主催者あいさつ・審査員紹介・投票についての説明          | 13:00 ～ 13:10 |
| 2 応募者によるプレゼンテーション（質疑応答を含み各 20 分以内） | 13:10 ～ 16:00 |
| 3 各設計案による批評（意見交換）                  | 16:00 ～ 16:35 |
| 4 審査員・応募者を含む参加者全員による投票             | 16:35 ～ 16:45 |
| 5 公開審査                             | 16:45 ～ 16:55 |
| 6 審査結果発表および表彰式                     | 16:55 ～ 17:00 |

### ○プレゼンテーション順

（あいうえお順）

①今枝 忠彦さん 13:10 ～ 13:30

②上野 純子さん 13:30 ～ 13:50

③加藤 麻帆さん 13:50 ～ 14:10

※当日欠席

④黒野 真樹さん 14:10 ～ 14:30

⑤下村 明子さん 14:30 ～ 14:50

<休憩 10 分>

⑥野口万莉乃さん 15:00 ～ 15:20

⑦藤森 幹人さん 15:20 ～ 15:40

⑧安井聡太郎さん 15:40 ～ 16:00

### ○投票について（投票者：持ち点 3 点）

1 人に投票（3 点） 2 人に投票（2 点・1 点） 3 人に投票（1 点・1 点・1 点）



## 1 主催者あいさつ・審査員紹介・投票についての説明（10分）

○野田和弥：アイデアコンペを行うことにあたって、応募する人が本当にいるかどうか心配しておりました。しかし、事前に工場を見学にいらした方が10名で、実際に応募された方が8名でした。のこぎり屋根工場の再活用に関心の方が予想以上に多かったことに驚きと嬉しさがありました。今日どんなアイデアがプレゼンされるのか、朝からワクワク、ソワソワしていました。みなさんのアイデアをお聞きして、この工場を「学び場・遊び場・憩いの場」として、元気な地域づくりに寄与する場にしていきたいと思っています。3番目に発表予定の加藤さんから、急に大学の授業が入ったため参加できなくなったという連絡を受けました。代わりに3番目の枠に、審査員の平松さんが特別に発表することになりましたので、よろしくお願いします。

○服部隆宏：野田君とは中学校3年間同じクラスという関係です。野田君の工場を再利用したいという話を聞いて、野田君の夢と一緒に応援していきたいという気持ちになり、このアイデアコンペの審査員の依頼を受けました。家庭の事情で、今日のコンペを最後まで参加することができないため、審査員として関われないことをご了承ください。

○平松久典：発表の時間は質疑応答も含めて一人20分以内です。その後、発表内容に意見交流した後、応募者、参加者全員による投票を行います。一人持ち点3点です。1人に投票すれば3点、2人に投票すれば2点と1点、3人に投票すれば1点ずつになります。私も発表しますが、審査員のため、投票の対象から除外してください。なお、予算や実現可能性の厳密な審査は行いませんので、結果最優秀賞に選ばれた提案が必ず実施されるというわけではないこと、あるいは最優秀賞でない提案が実施される可能性があることをご理解ください。



## 2 応募者によるプレゼンテーション

①今枝忠彦さん 「のこ」が立つ。「まち」に開く。

### 「のこ」が立つ。「まち」に開く。

今枝忠彦（藤沢市在住／一宮市今伊勢町出身）

#### ●いま、再び「のこ」が開かれる

- ・「のこ（鋸屋根）」が立ち、「まち」が開けた。やがて、「のこ」が閉じ、「まち」も寂れた。閉じた「のこ」は、音を失い、静かにその特徴的な姿を家並に埋没させている。
- ・そして、ひとつの「のこ」が、野田さんの夢の詰まった“小さな学び舎”として、再び開かれようとしている。
- ・「まち」に対して、「のこ」が立つ。さて、どのようなかたちで「のこ」を開こうか。その「のこ」の屋根は、そして壁はどうしようか。



#### ●「みち」、「にわ」に開く「のこ屋」

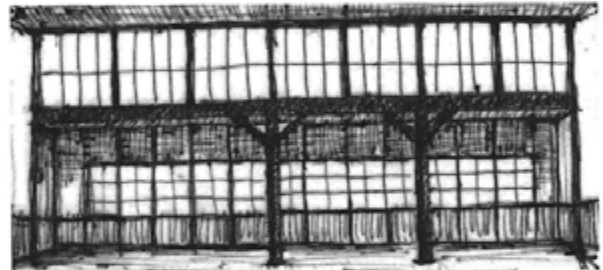
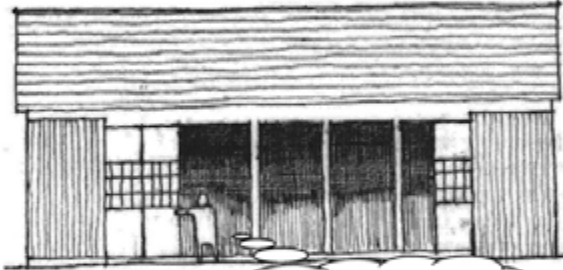
- ・かつて、「みち」と「まち」は同義であった。「のこ屋」は、前面の「みち」を介して「まち」に開く。
- ・また、「のこ屋」は、「にわ」を介して、「つじ・ちまた」に通じて、「まち」に開く。



●屋根と外壁を「戸・扉」として、「まち」に開く

①「みち」に開く

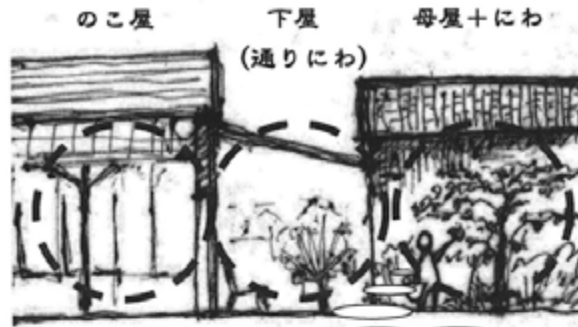
- ・「みち」に直接面する開口部をできる限り広くして、多くの人たちを迎えることができる。基本イメージは、壁をなくしたフルオープン。中には、連続する室とこの屋構造のダイナミックなパノラマが控えている。
- ・「戸・扉」の形式は、外付けの引き戸がよい。戸には木造小学校のイメージが残るガラス窓を組み込みたい。オープンカフェのような、不特定多数の人たちの集う「みち」の延長空間としての活用が広がりそうだ。



ご願帳。よいしょ。

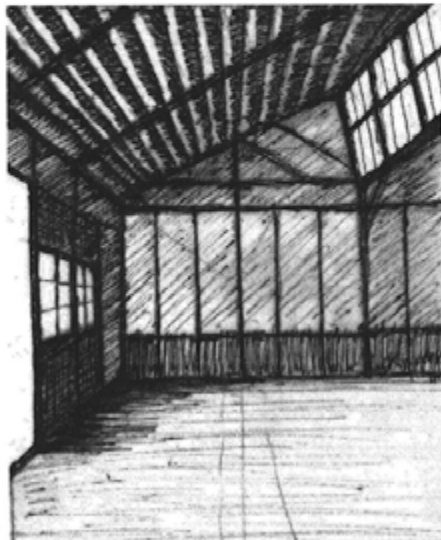
②「にわ」に開く

- ・「にわ」は、視覚的に開放された「半私有空間」。下屋は、のこ屋と母屋、のこ屋とにわ、そして前庭と奥庭に新たな関係性を築く。開きつつも他者の侵入を押留めるイメージは、透過性のある柔らかく連る壁である。
- ・「戸・扉」の形式は、障子戸、網戸、簾戸、御簾・すだれ・壁代・几帳等々。「みち」からの直接アクセスを制限して、特定の利用者や仲間とのセミプライベートな空間利用が可能となる。



今年は神が沢山実ったなあ

③「そら」に開く



- ・空から、南の暖かな光、風を取り込みたい。基本イメージは、開閉する羽、スリット。若干の雨の侵入もまたいいではないか。
- ・「戸・扉」の形式は、がらり戸、鑑戸。あるいは、大きなベネチアンブラインドか？「そら」に開いた半屋外環境の使い途はこれから考えよう。それよりも、「のこ屋」の上に「のこ」が立つ。それは、野田さんの「のこ屋」が「まち」に開いた証しである。

これを引っ張れば、「のこ」が立つのか？ 電動にできないかなあ。

コワッ！  
あぶねエ





今枝さんの提案は、都市計画の専門家の視点から、のこぎり屋根工場を「まち」に開くというもので、「まち」の中で「のこ」とはどのような存在なのか、多角的に分析されていました。また、ただ単に「地域住民に開けた場所」という曖昧な表現ではなく、「のこ」をどこに向かって、どのように開くかがユニークに提案されていました。「みち」あるいは「にわ」に開くという提案は現実的に十分に可能性があり、よりオープンで地域と一体的な使用風景が想像できます。「そら」に開くには設備や雨仕舞いなどの課題が残りますが、この場所をどのように使用していくか次第で解決可能な課題であると考えられます。タイトルにもなっている『「のこ」が立つ』という言葉は『うだつが上がらない』の対義語のような雰囲気や響きがあり、とても好感を持ってました。まちの中にいくつもの「のこ」が立っていき、この地域独自の言葉になる可能性をも秘めていると感じました。(評：平松久典)





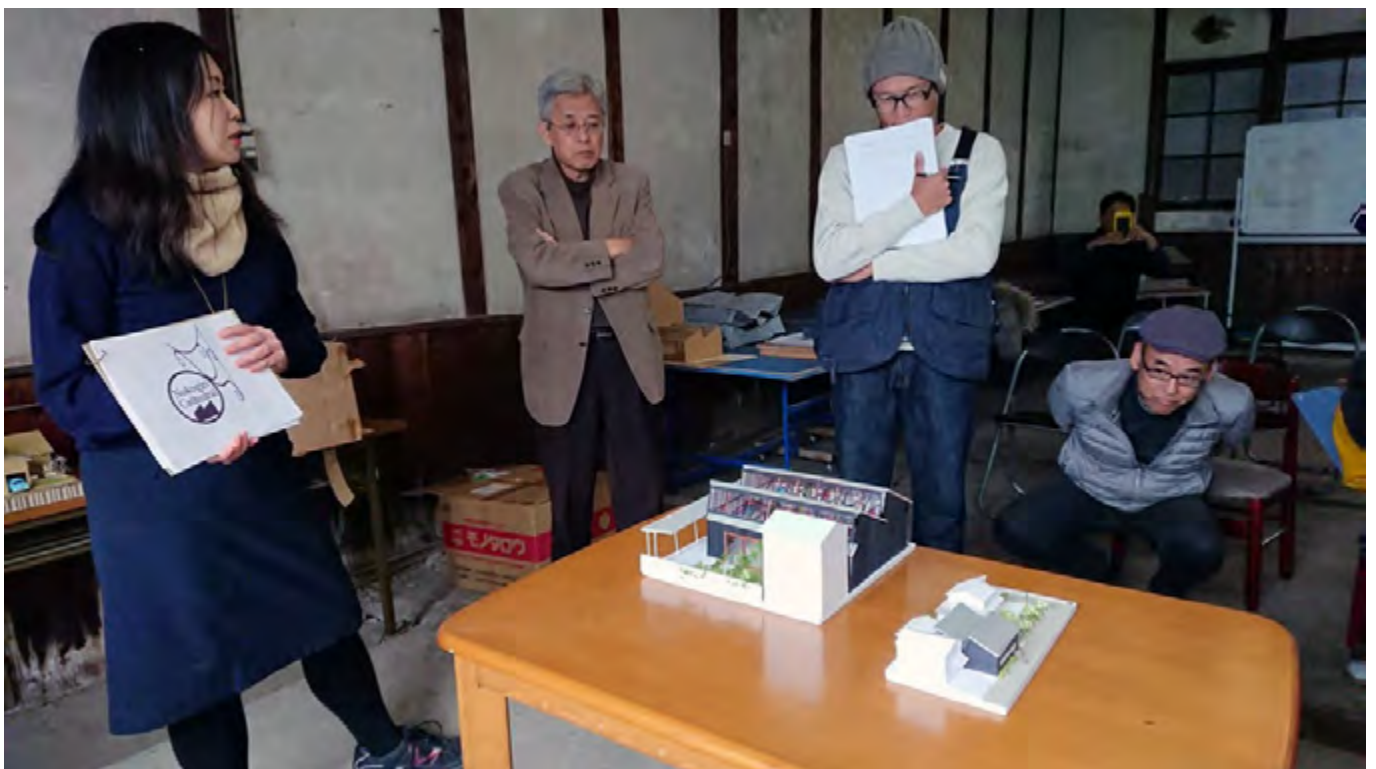
②上野純子さん Nokogiri Cathedral



上野さんはいくつかの著名建築を例に挙げながら、のこぎり屋根工場にも様々な可能性があるのではないかと説明されていました。外壁の提案としては黒の波板というシンプルなもので、窓は透明ではなく乳白色のガラスを使用し、敢えて前面道路に閉じた計画でした。その代わりに中庭、北の庭に大きく開口をとり、身近な自然を十分に取り込んでいました。前面道路からの視線を遮り、外に閉じた空間とし、工場内部に入った際の感覚を、より特別で神聖なものにしたいという意図を感じました。それをより一層演出するものとして、のこぎり屋根特有のハイサイドライトにステンドグラスを設置し、それを透過した光がある瞬間工場の中を彩ります。それが常に工場の中にあるのではなく、ある一定の時間しか現れないということが、同じ時間に人が集まれる仕掛けになるというものです。

屋根はガルバリウム鋼板の欠点である雨音の騒音を防ぐために、極小の石を散りばめた特殊な屋根の提案で、野田さんの要望を丁寧に汲み取っています。

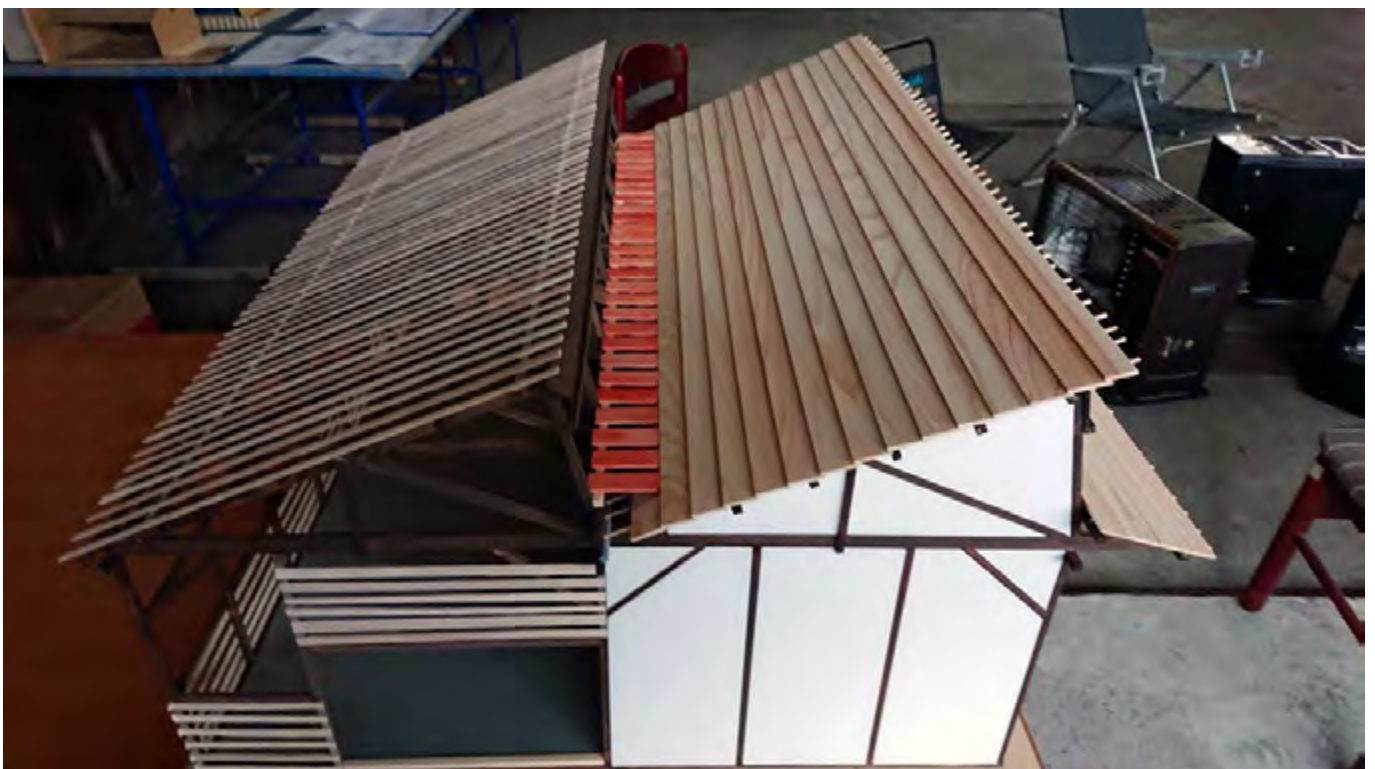
課題としては、ハイサイドライトに設置したステンドグラスがどの程度空間を彩る光を生み出せるか。ほぼ真北を向いたハイサイドライトは直射日光が終日入らない可能性があり、北側の光だけでステンドグラスの光のちらつきをどこまで演出できるのか、少し疑問が残りました。これは実験してみないと分かりません。一宮市内に南向きの天窓を持ったのこぎり屋根工場があるので、そこにはピッタリかもしれません。(評：平松久典)



③平松久典さん 谷の樋橋



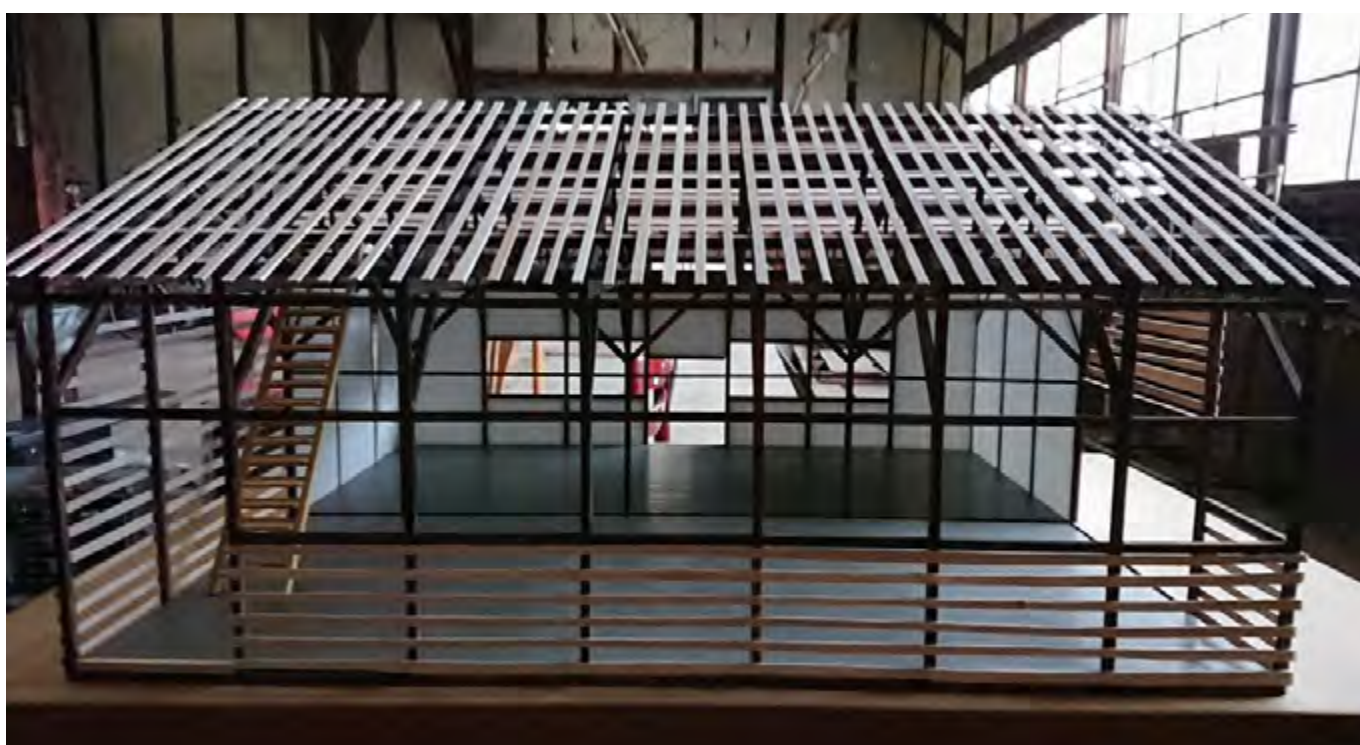
これは野田さんが以前から独り言のように行っていた「屋根に昇りたいな」という言葉を後押しする提案です。北からの光を均一に取り込むことができ、光環境のとても優れたのこぎり屋根。一方でその屋根形状から谷が生まれ、雨仕舞いはとても優れているとは言えず、持ち主の一番の悩みの種が「谷樋」なのではないでしょうか。その厄介者の谷樋の上に「橋」を掛けました。その橋を渡って木板で葺いた屋根に昇り、寝そべって風を感じたり、夏には花火を見たり。





外壁は古くなったトタンを剥がし、土壁を補修し漆喰をもう一度塗り直します。内部から見えるきれいな構造を、外部でも見えるようにします。道路側の一棟は屋根も壁も全て撤去し骨組みだけにします。柱と柱の間や、母屋と直行に木板を目透かしで張り、道あるいは空に対して緩やかな境界をつくります。また、道路側の一棟をこのように外部化することで、建物の内部空間がセットバックした形になり、骨組み空間に人が集まることができると同時に、のこぎり屋根の存在を強くアピールすることができます。

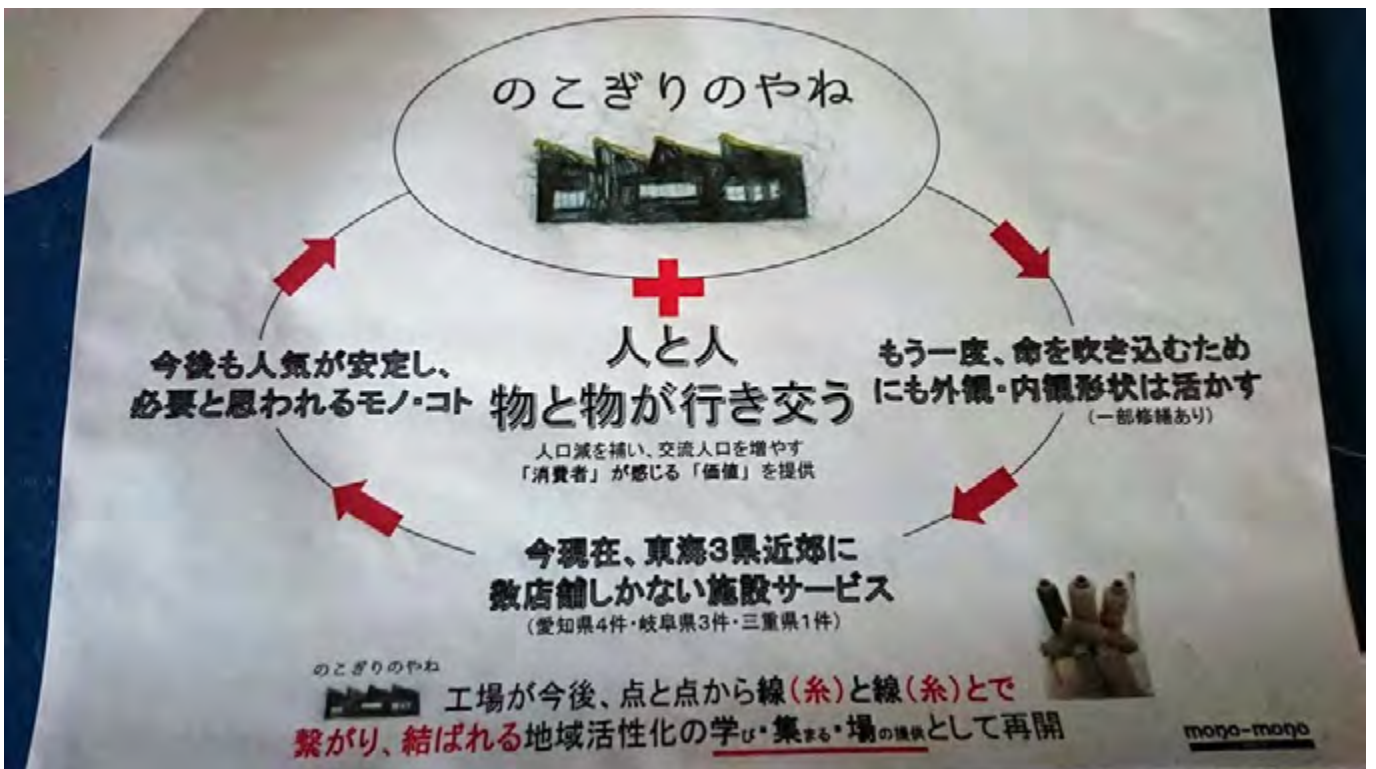
課題は骨組みが雨ざらしになってしまうことに加え、屋根を木で葺いている部分の防水と維持管理です。半永久的に維持できる素材を使うのではなく、短い期間で手入れが必要な素材を選ぶことで、野田さんの家族の意向に寄り添っていく建物となるよう提案しました。



④黒野真樹さん



黒野さんは工場の使い方の提案をされました。事情により内容の公開はできませんが、これからの時代に必要性が高まってくるものかもしれません。どんな工場でも当てはめることが可能で、そういう使われ方の工場がいくつかあっても良いと思いました。現在なかなか町中に普及していないものを、廃工場を利用して実験的に仕掛けてみることは大変面白い試みで、先代が残してくれたものを未来のための実験に活用することは、形だけ保存するよりもよほど健康的だと感じました。(評：平松久典)



# 応募のきっかけ

私は猫が大好きです。

「新しい発想の屋根」と聞いて

まず先に思い付いたのは

「すべり台を作ること」でした。

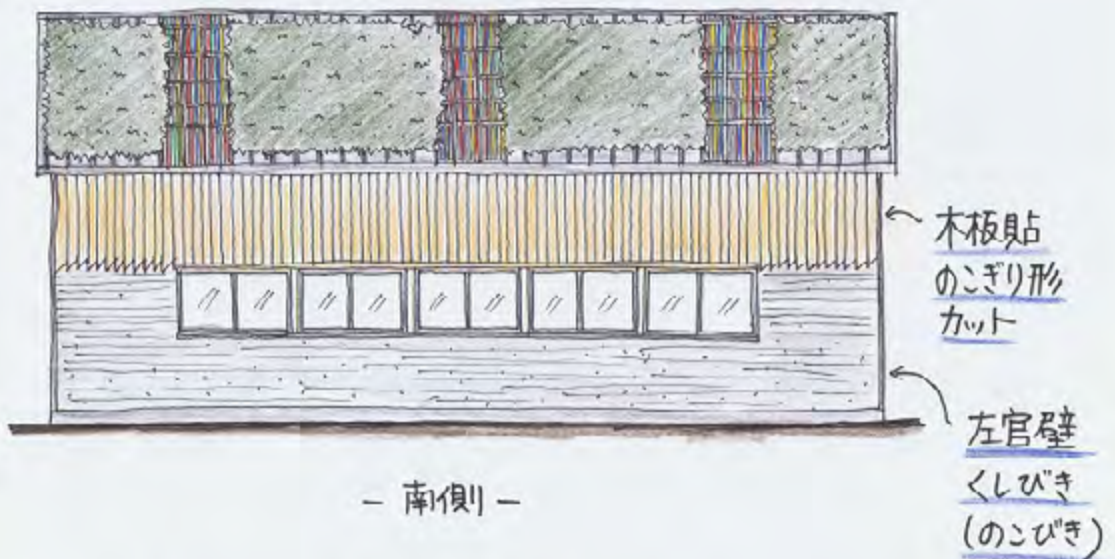
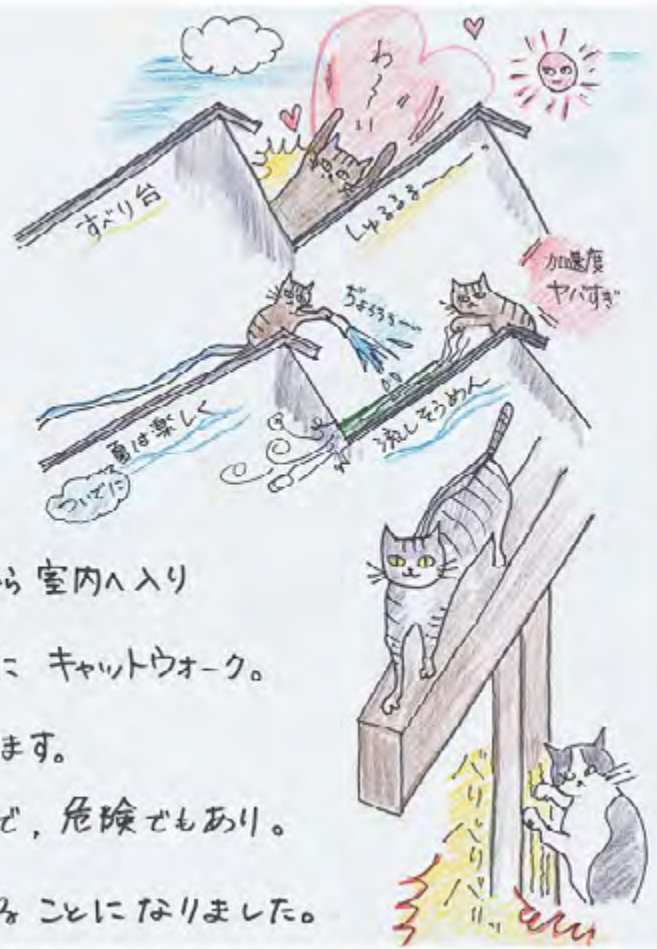
屋根をすべり、高窓(開くおにじ)から室内へ入り

小屋組をまたまた歩く猫。まさにキャットウォーク。

柱ではバリバリとつめとぎもできます。

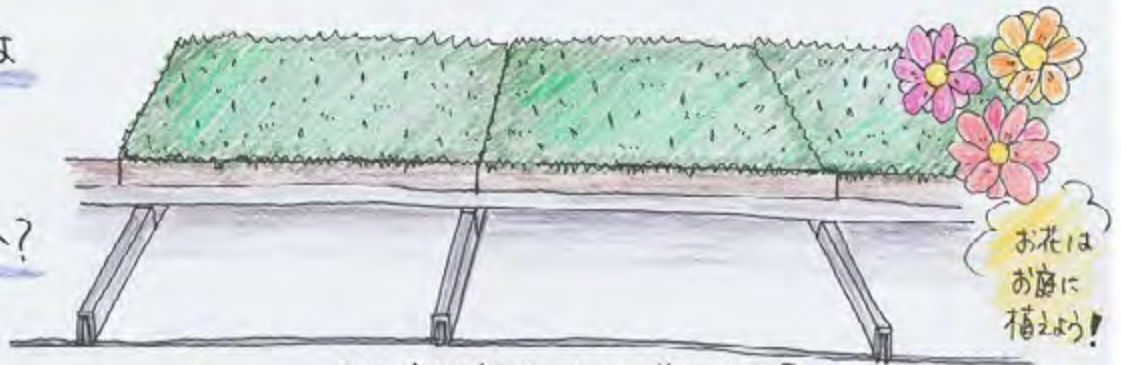
しかし、これでは工場はホロホロで、危険でもあります。

きちんと使えるような案を考へることになりました。



★ 植栽は ふわふわした毛織物を イメージした屋根です。  
 ★ 毛糸は「織る」という行為を

屋根には  
何を  
植えますか?



みんなが植えたいものと考えよう! 「緑ののこぎり」

うまく育てば楽しいよ!

ほんとに水やりなれどもOKのところが!!

大きくなれよー

水やりできるかにゃ

常緑キリンソウも使われます

ねこ草も植えてにゃ

自分で水やりよー

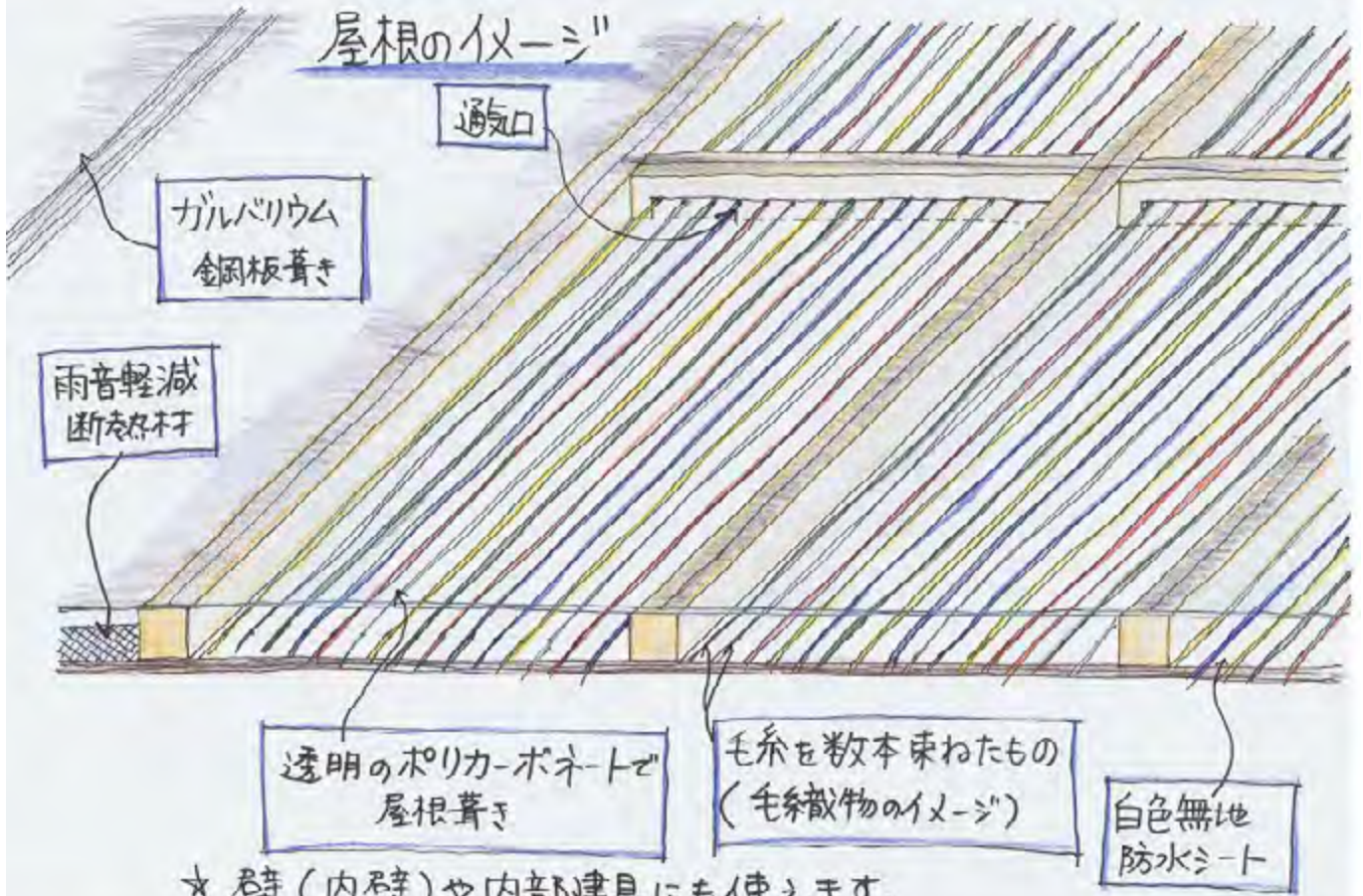
屋根の温度が下がって夏はちょっと涼しいかも

「すなごけ」は屋根に向くようです

芝生の屋根も気持ちよさそう

自分でお水をあげよう!

屋根のイメージ



★ 壁(内壁)や内部建具にも使えます。



工場の歴史として  
残したい土壁

- 東側 -

ガルバリウム鋼板貼  
(東・西・北面共)



外壁を塗るコテを作ってみよう!



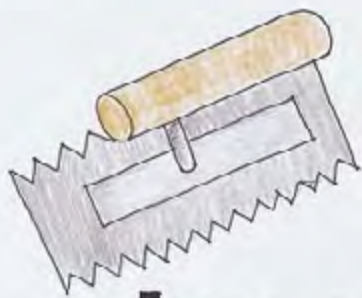
左官やさんが  
持ってる「コテ」



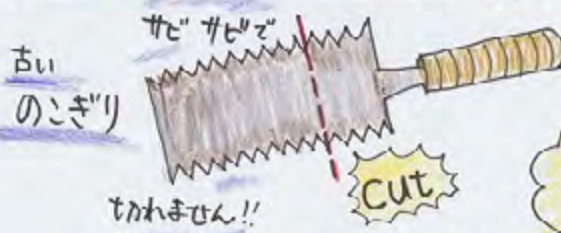
よいアイデアが  
浮かんだにや。



みんなで作るにや。



「くしコテ」なるものを  
見つけた!



古い  
のこぎり

たかまじん!!

CUT

これで壁を  
塗るのだよ!!



補強して  
柄をつけたら  
「のこテ」のできあがり!

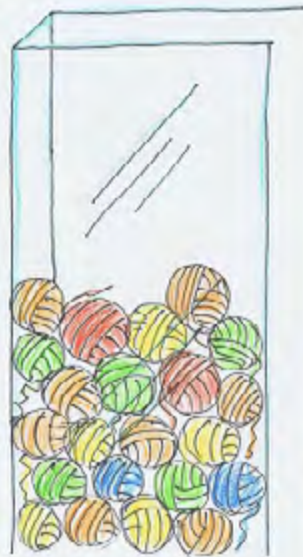
使えぬか? 塗れぬか?



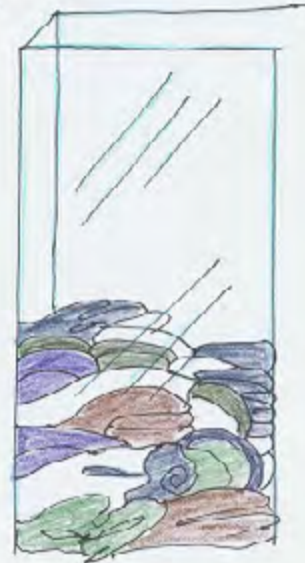
# 内壁や建具(室内)で遊ぶ



毛糸つるして



毛糸巻いて



布の立端をつめて

## ギザギザ屋根は のこぎり屋根工場の特長 だけど....

夏は屋根と高さからの熱で  
天井付近は温度が高くなるでしょう。



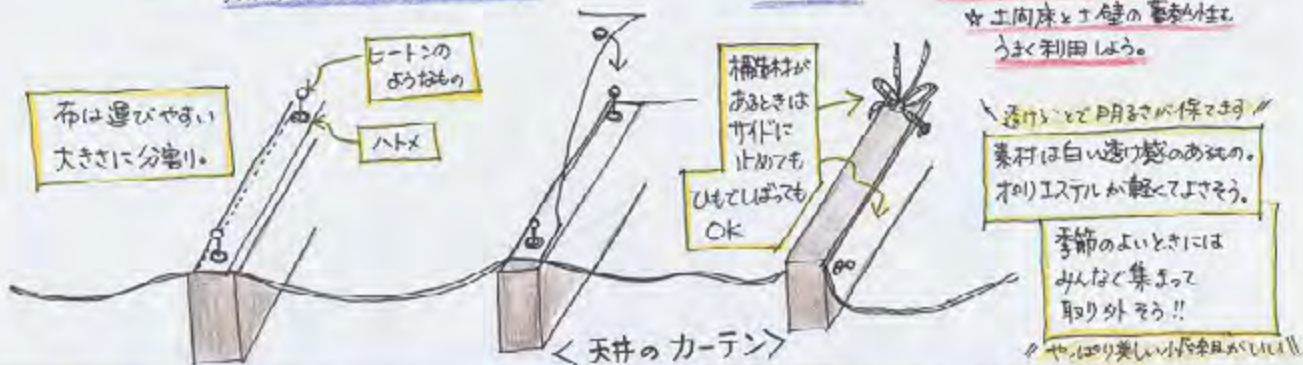
少しでも  
熱が入らない  
ようにしよう。



少しでも  
熱が  
逃げないように  
しよう。

冬はストーブで暖めた空気が  
よへたってしまうでしょう。

★土間床と土壁の蓄熱効果を  
うまく利用しよう。



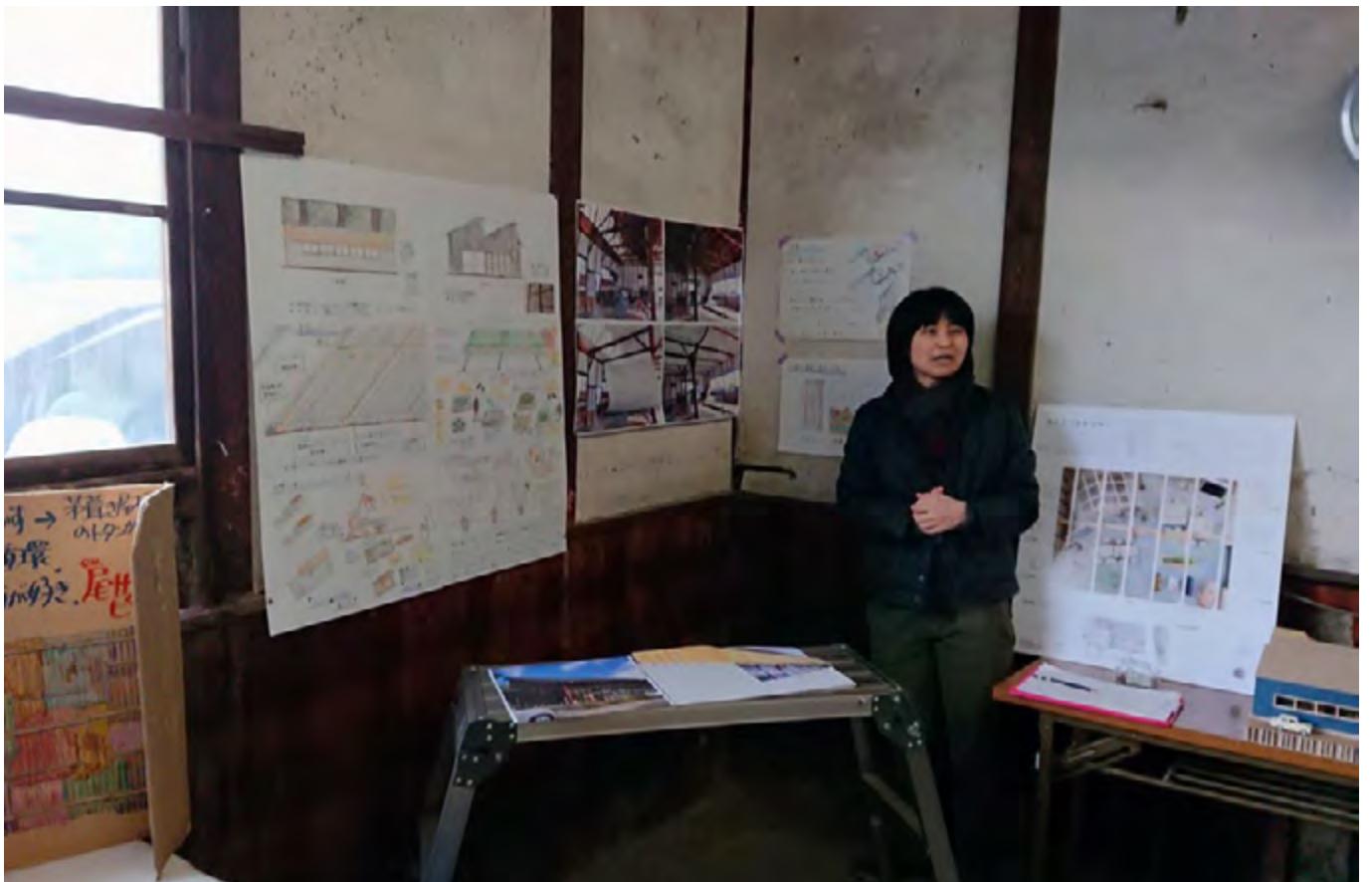
熊本で震災が起きたとき、避難所になった体育館(約3000㎡)の天井材が落下しました。その時、ひとりの建築士が声をあげました。「天井に布を吊ろう」と。それにはいくつかのねらいがありました。高い天井に布を吊ることで空間を小さくし、空調エネルギーの削減(目的)をはかることもひとつでした。現地では約140名の人達が2日間かけて手ぬいで布をつなぎあわせ、完成。そこからヒントをもらいました。



応募のきっかけまで丁寧に記してくれた下村さんの提案は、「毛織物」「のこぎり屋根」というキーワードを分かりやすく人々に伝えるものでした。プロに全て任せるのではなく、地域の皆で少しずつ形にしていき、その中で築き上げるものこそが一番大切なことであると教えてくれているようでした。

現実的な問題やその解決法、細かな施行方法を丁寧に説明しており、予算的にも十分に実現可能なものです。屋根には緑と毛糸、壁にはのこぎり状にカットした木板と「のこびき」左官壁。ただ残念なのは、一つ一つの提案は面白いのですが、盛りだくさんな内容が逆にコンセプトを弱くしてしまい、結果表層的な提案になってしまった感がありました。

のこぎり屋根の特長である天井のない大きな空間が持っているデメリットを的確に指摘し、それを少しでも改善しようという姿勢は評価できました。機会があれば応募のきっかけである「猫の滑り台」の提案をいつか見てみたいと思います。(評：平松久典)



# のこぎりあかでみー

Other Manufacturing Academy

誰もが自由に「てづくり」を楽しめる場所。未来を語る地域の大学。  
小さな子供から大人まで幅広い世代に開かれた文化コミュニティの拠点。

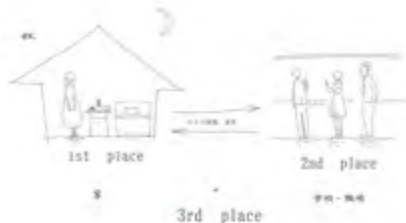
## Background

人間の歴史、文化の歴史

10,000 年 旧石器時代  
5,000 年 新石器時代  
2,000 年 中世  
1,000 年 近世  
1,800 年 産業革命  
2,000 年 現代

てづくり時代

## Concept



## Site



## Diagram



のこぎり工房

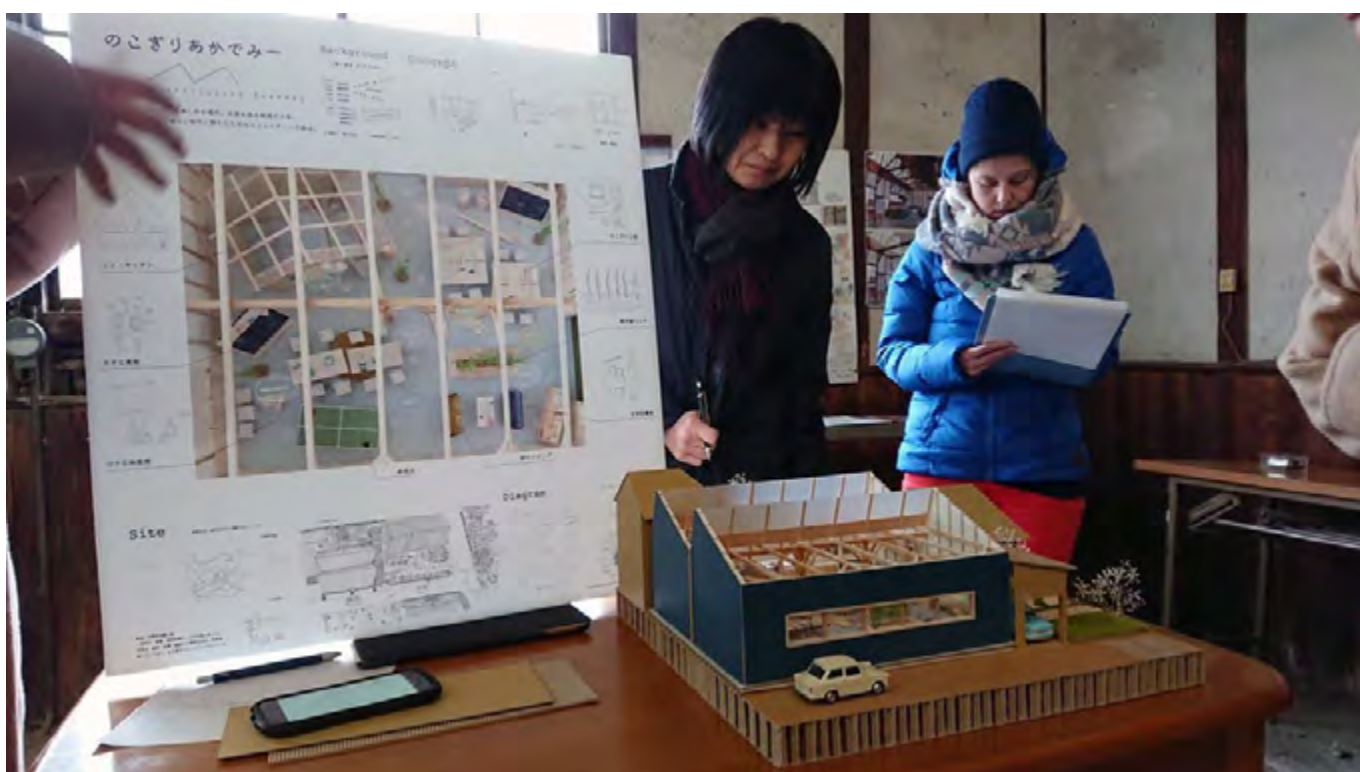
貴客デッキ

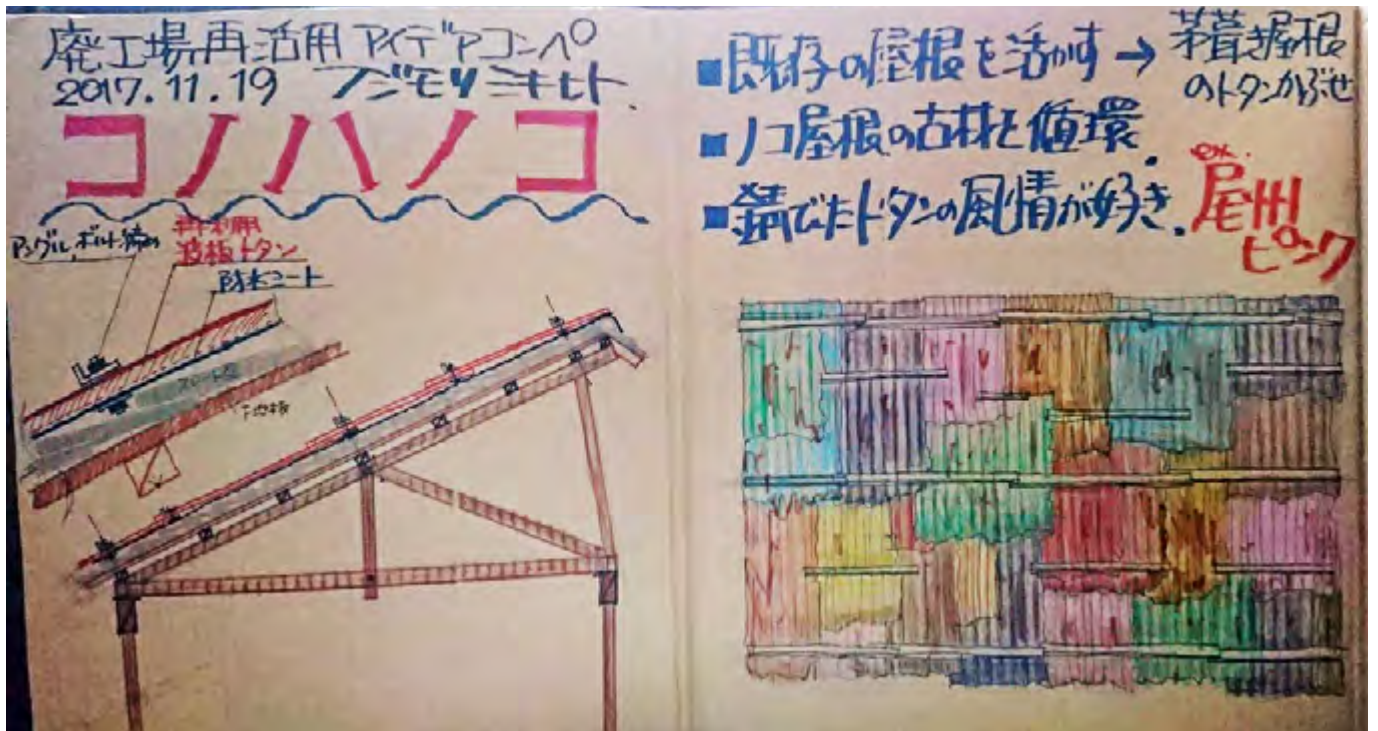
街のリビング

卓球台



野口さんはこの時代の問題、地域の課題を20代の視点から広域的に読み解いていました。学校や職場でもなく、家でもない、もう一つの居場所がまちの中に必要ではないかという彼女の問題定義が、のこぎり屋根の活用の意義にぴったりと合致している気がします。かつて市民が職場としてもものを作っていた工場で、今度は市民が3rd Placeとしてもものづくりを楽しむ場所として使う風景は、廃工場の活用として理想的な形の一つだと思います。コンペの主題である屋根及び外壁デザインについての具体的な提案と、利用方法に関しての斬新さがもう少し欲しかったです、それを補う十分に目を惹くコンセプトを持った提案でした。(評：平松久典)





藤森さんは錆びたトタンにそれぞれ名前をつける程トタンが好きな方で、いろいろな工場の色とりどりのトタンを集めてそれらを補修箇所貼りつけるという提案です。完全な補修ではなく、次のステップまでの延命処置という考え方で、遊び心の中にも合理性が感じられました。実際に野田さんの工場は、現状全ての壁あるいは屋根を補修する必要はありません。必要な箇所にだけ最低限の補修を施してあげれば十分使用できる建物です。古いものを再利用するということはもちろん、金属が錆びるという自然の行為の中で一つとして同じ色がないものをランダムに組み合わせる面白さ、そして尾州の工場群が辿ってきた月日を興味深く感じさせてくれる仕掛けが評価できました。(評：平松久典)

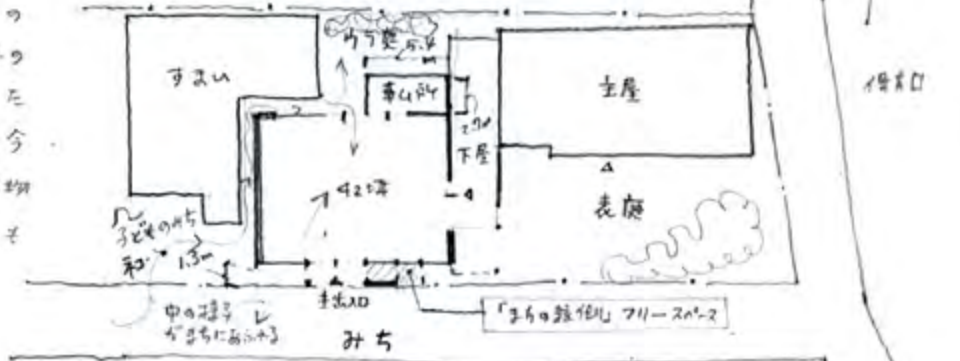


# のこぎりのやね

廃工場再活用アイデアコンペ

2017.11.19

わたしは、五十有余年この土地で、工場として生活の一部を過ごし、地域の記憶のたもととして、ここに立った雨や風の結果としてある今のこののこぎりやねの建物を大切に美しく、大切にそのと覚める。



のこぎりやねの特徴である北面採光による安定した明るさの42坪のワンルーム空間は、元来が地域づくりの場として、その馴染みのある外観とともに必要十分な力を持っている。

周辺配置図 1/300

## 提案の基本

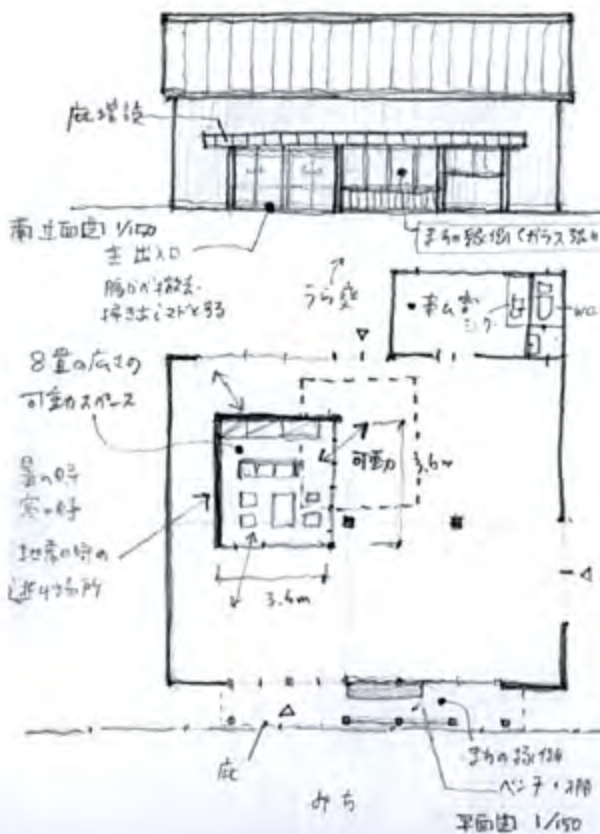
「五十年をきた建物として身なりを整える。」

- ・やねは形状等をそのままに改修する。
- ・外壁は、一部朽ちた波板鉄板を、建物裏側周辺にある建物の良い材に貼り替える。
- ・偏った土壁は、竹小瓦編みや土壁の練り直し、土壁塗りを行う。(セルフリペアも可)

## 改善の提案

「街の調整」

- ・南側のみちに向した窓の一部を突き出し窓とし、中の様子が見えるようにします。宙も無く、多事で南や北の場、親しみ易い場とします。
- ・いつでも、だれでも使えるオープンな場所、「まちの路側」を設けます。
- ・小さなのこぎり屋根のいえ(可動)を設けます。42坪は大きな空間です。小さな集まりや個人の利用でも心地良い場として利用できます。



- ・のこぎりやねのまわりの建物の宙は、仄々不コヤさでもの通り道なので大切にします。

もうひとつの居場所の種(い)

これまで工場が過ごしてきた50年という年月を、考え方の拠り所にしようという安井さんの提案。建物を構成している木、土、金属やそれらに取り付く錆、菌、虫。建物と聞くとふと人工物と思ってしまいがちですが、実際には人間が決して作り出せない自然界にあるのものから出来ています。時間が経ってそれが変わっていくことは極自然なことで、その変わりゆく姿に価値があるのだと、安井さんの講義を聴いているようでした。外壁は工場に残っていて建物と同じぐらいの年月を重ねた比較的きれいなトタンを使い補修をするなどして、極端な変化ではなく、緩やかに改善をするように提案されています。

内部では、建物の中にボックスを設置し、それを使って空間の間の調整をするという提案がありました。ボックス内で暖をとるなどの住環境の改善のためだけでなく、使用人数によって変わってくる空間の感じ方をボックスによって調整するという発想が評価できました。

屋根に関して特にこだわりはないとのことでしたが、現在抱えている一番の問題点である屋根についての意見（意匠、機能、経済面）も聞きたかったというのが本音です。（評：平松久典）



総評：

工場の使い方に関しては既に野田さんの想いがあるため、今回は敢えて屋根と外壁のデザインの提案という募集としました。これはのこぎり屋根の機能や特性に集中して、単純であるはずの構造をもう一度掘り起こし、現代の工場のあり方を根本から考えてみてほしいという意図がありました。その結果、どの提案も独自の視点で問題定義されており、それに対する対応が明快に提案されていました。そしてこれらの提案は必ず内部の使用方法に繋がっていきます。今度は内部からの提案を議論することで、更に意見の幅に広がりや関連性が生まれ、より具体的な提案を議論できると思います。

余談ですが、安井さん、今枝さん、平松の提案は、前面道路に出入り可能な開口部を設け、工場を開けた空間としています。反対に上野さん、下村さん、野口さんは、前面道路ではなく中庭を通して工場に出入りする形となっています。偶然とはいえ前者と後者で性別がきれいに分かれました。これにどんな意味があるのか分かりませんが、そんな視点で議論してみても面白いなと思いました。（平松久典）

### 3 各設計案による批評・意見交流（30分）

12名【審査員2名、発表者7名、参加者3名（御田村真毅さん、青木俊克さん、田内公康さん）】が車座になって、公開プレゼンを聞いての感想や各設計案についての意見交流を行った。

### 4 審査員・応募者を含む参加者全員による投票（5分）

総数36点（6点 2作品 5点 3作品 4点 2作品 1点 1作品）

### 5 公開審査（10分）

審査員2人で投票結果をもとに協議した。全員の投票の結果と審査員の投票を重視して、6点を獲得した藤森さんと安井さんを最優秀賞に決定する。5点を獲得した大学院生の野口さんに、若者の前向きな意欲と努力を称え、特別参加賞を贈呈することにした。

### 6 審査結果発表および表彰式（3分）

審査の内容を発表者、参加者に伝え、最優秀賞2名、特別参加賞1名を発表して、賞金3万円を3等分して3名の方に1万円ずつを贈呈した。

今回の公開プレゼンに集まった皆さんと今後も交流して、工場の再活用に向けて進めていきたいと思い、フェイスブックでグループを作る提案をした。皆さんが快く承諾していただき、「のこぎりのやね」という名前でグループを作った。最優秀賞2名の方に渡した賞金を寄付という形でいただいたので、「のこぎりのやね」グループのメンバーでの交流資金として使っていこうと考えている。





